

かわらばん

まちえんながの

第 19 号

2月 10 日(月)

発行
まちの縁側育み
プロジェクトながの

長野市ボランティア
センター内
TEL 227-3707
FAX 224-1513



新シリーズ

まちの縁側の可能性をさぐる 包括職員 岡本仁さんにインタビュー！



長野市中部地域包括支援センターの職員、岡本仁さんは、福祉や保健、医療などに関する高齢者の皆さんの総合相談窓口として日々、相談に応じています。地域にあるさまざまな課題を解決するためには、まずは『包括』を知ってもらおうことから、ネットワーク作りや関係機関との連携に取り組んでいます。

まちの縁側との運命的出会い！

「まちの縁側を知ったきっかけは？」

『認知症相談会のチラシ』を置いてもらえると、知らないかボランティアセンターに相談に行きました。公共的な所へは、ほぼ配布をしていたので、高齢者の方に目とめてもらえるような場所がないかと。その時にコーディネーターの方から「まちの縁側だよ！」と聞いて、さっそくチラシを持って行きました。

とりあえず、市役所から自転車で行ける範囲というところで、中心市街地にある洋品店、本屋さん、呉服店、映画館、布団屋さんなど普段では考えられない場所ばかり。行ってみて、とにかくびっくりしました。どこに行っても二つ返事で『良いよ』って。お店にチラシを置いてもらえらるなんて、思ってもいなかった。話をしてみると皆さん、



たけのや呉服店



岡本さんが実際に訪ねた「まちの縁側」



洋品店 しゃれもんはうす

アンテナが高い。さらにチラシを置いてもらえそうなところを紹介してもらいました。薬局、味噌屋、酒屋、魚屋：その人が持つネットワークみたいなのもおまけにくっついてきた感じで、「俺の名前出してもらってもいいから」と、すごく安心感がありました。訪ねた先々の皆さんの反応も良くて、「ちよつととつつきにくいお店だと思っていた」ご主人が実はとても気持ちのいい人で、**関係を作る**って、こういうことなんだなと思いました。

「**まちの縁側は日常の一部**」
—実際にまちの縁側に行ってみていかがでしたか？

これまで、このような町のお店とは関わりがありませんでした。実際に行ってみると、生の声が聞けました。高齢化率〇%とか、夜間人口ゼロ等と数字で表すけれど、それだけでは見えないこと、人やまちのことが見えます。役員とか専門職でない皆さんが、たくさん情報をキャッチして、自然に相談相手になっていく。まちの縁側は普通の生活の中にあって、そこに来る人の普段の様子を知っていて、なんとなく気になる人を感じ取っている…**日常の一部**なんです。



箱山布団店



町に出て地域を知ろう！

「ネットワーク準備委員会では、どのように話が進みましたか」

第五地区を担当する相談機関が集まって情報交換をした時に、「そもそも第五地区ってどこ？」っていう話になりました。自分たちが担当する地区を知ることから始めようと民生委員さんや駅前交番の所長さんも入ってもらって会議を開いたのがネットワーク準備委員会になりました。ちょうどマンションに住む方からの困りごと相談もあつて、実際に町を歩いてみようという話が進みはじめていたこともあり、まちの縁側を思い出してボランティアセンターに相談したことが始まりです。



打ち合わせをするネットワークのみなさん

下見の時からワクワクしていました。町を歩いて感じたことは、知っているようで知らない、新たな発見ばかり。町には、お宝がいっぱい、人が宝。すでに縁側のところがたくさんあった。地元の人にも講座に参加してくださり町をよくしたい思いの人がたくさんいる。そういう人たちとつながっていききたい。これまで何気なく歩いてきた町が違って見えるようになり、気がつくまで縁側探しをしているような…。



第5地区の縁側講座まちの探検発見ほっとけん

まちにはお宝がいっぱい！

「まちの縁側講座はいかがでしたか？」

「縁が輪を強みに！」
「今後はどんな風に縁側と関わっていきますか？」

町を知ることできっちり相談を受けることができると感じています。制度やサービスだけでは解決できないことがたくさんある。『あの中のことならこの人に頼める』というふうな…地域を知っていることの強みを生かしていききたい。なにかにつけて縁側を訪ねていきたいと思います。何気ない雑談の中に「おや？」と、思うことが見えてくる。生の声を拾える場として縁側のみなさんとつながってきたい。



「ここは地元の人が良くいくお店だね…」縁側発見！

まだまだ後日談！

講座のあとも度々まちの縁側を訪れている岡本さん。先日自転車屋さんと一時間半ちかく話をしてきたとか：相談者の困りごとを地域の力を生かして解決していくと前向きです。ネットワークのメンバーで講座に関わった



関係機関のパンフをセットにして縁側に配布。岡本さんならではのアイデアだ！

準備委員会は、
・パーソナルサポートセンター
・若者サポートステーション
・中部包括支援センター
・駅前交番
・マイステップ
・コンフォート西鶴賀
・民生委員
・ボランティアセンターなどで構成

コンフォート西鶴賀さんでは、地域の人が気軽に寄れる「日曜カフェ」を検討中、福祉施設も縁側になります。
来年度は、まだ町歩きをしていない地域で縁側講座を実施する予定。まちの縁側のさらなる広がりが期待されます。

＊まちの縁側育みプロジェクトながのかわらばんの縁側を伝え広める活動をしていきます。
地域に Outreach 縁側の紹介や研修を行っています。
縁側に関心のある方は、一報ください！

まちの縁側育みプロジェクトながの
電話 026-2273707



つぎやき
この頃、新聞や雑誌を読んでいると「居場所」についての記事の多さにびっくりします。高齢者、障がいのある人、若者、子ども、働く人、…どの人も居場所が必要で、繋がりがあって、ホッとでき、自分も何かできる…安心な場所だそう。まちの縁側ですね。

大募集!

「あなた」にとってのまちの縁側を教えてください。子どもの頃の居場所はこんなところだった！大人になっての居場所、現在の居場所…等なんでも OK です。
400 字程度で下記メールアドレスへお送りください。ご応募いただきましたら『まちえんがの』でご紹介させていただきます。

vc106@vnetnagano.or.jp